



三本桜

第31号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
12月の目標： 交通ルールを守って生活しよう

がんばれ、高取っ子！

早いもので季節は、晩秋から初冬への変化の中、確実に大気は一朝ごとにその冷たさを増しています。寒くなります。どうぞご自愛なさって健やかに過ごしてください。

学校では、1年の終盤を迎え、子どもたちは学習のまとめをしています。さまざまな行事や種々の取組の成果や課題を振り返る時期、それぞれの子どもが、来る明るい年、そして、来る新年度に向けて、ステップアップの助走の準備をしています。



さて、冬の寒さが厳しいことの例えに、「玄冬素雪」（げんとうそせつ）という言葉があります。これは、平安時代（1018年頃成立）の歌集「和漢朗詠集」に、三十六歌仙の一人である源順（みなもとのしたごう）が、貴族、源融（みなもとのとおる）の造った庭園「河原院」で読んだ漢詩の一節、「玄冬素雪之寒朝 松影君子之徳（げんとうそせつのかんちょうに まつくんしのとくをあらわす）」～冬の雪の降る寒い朝でも、この院の松は緑の色を変えないで、君子の徳をあらわしています～と訳され、厳寒の冬の松のすがすがしい姿を描いています。

「玄冬」とは、古代中国の五行説でいう「冬」のこと、「素雪」は白雪のことです。源順は四季のそれぞれの美しさの中に自然の不動の摂理を表現したのかもしれませんが。すなわち五行でいう冬をつかさどる神獣「玄武」から発生した「玄」を冠する「冬」、そして水を司る神「玄武」をモチーフとして、「冬の草木は地上では枯れ果て、まるで死んでしまったようだが、地中ではこの水の気を吸収し、冬に続く季節、春には新しい緑の葉を延ばして行く」と考えられているようです。「冬」は寒く辛いと思われがちな季節ですが、目に見えないところでなくてはならない重要な季節です。

子どもたちには、「明るい春」への貴重な時期であることをしっかり認識して、今なすべきことにしっかり向き合い、歩いて行く。そんな力強い歩みを期待しています。無くてはならない辛い季節ですが、それが明るく花開くことを祈って、心から子どもたちを応援したいと思います。

PTA役員会・理事会

11月26日（土）9:00からPTA役員会、10:00から理事会を開催しました。今年取り組みのまとめや来年度の組織づくり、喫緊の課題等について協議していただきました。活動の効率化、スリム化をはじめ、時代の潮流にあったPTA活動を展開していきたいと思っております。保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

いろいろな読書

読書というと、漫画や雑誌は読書からは排除されることが多いようです。では、製品カタログ、料理の本、写真集、旅行ガイドブック、地図帳、図鑑や辞典・事典などを読むのは読書になるのでしょうか。

読書とは、娯楽や実用目的で読むこととは違い、何か自分を高めるものをじっくり読むことだと言う人がいます。

自分を高めるために何かをじっくり味わって読むということを意識しているかいないかでは、大きな違いがあるでしょう。しかし、世の中にはいろいろな本があり、読書もいろいろなのではないかと思います。ざっと概略をつかむ読み方、図鑑や辞典・事典で調べる読み方など、いろいろな読み方が求められています。読んで料理を作ることも素敵なことです。写真集や画集などを見て、何がどう表現されているかを考えるのであれば、そこに表現されたものとの対話が生まれます。漫画や雑誌にも深く考えさせられるものがあります。なかなかないことですが、辞典・事典もおもしろい部分があります。大切なことは適切な読み方です。逆に、書物のような形をしていれば何でもよいということではありません。

子どもたちには、あまり先入観にとらわれることなく、何のためにどう読むのかを意識して、いろいろな本とつきあって、人生を豊かにして欲しいと願っています。



学校のウェルビーイング実現のために

「ウェルビーイング」は直訳すると「健康」となります。しかし、「幸福」とか「幸せ」と翻訳されることが多いです。つまり「身体的・精神的・社会的な面で全てが良好な状態にあること」を意味します。身体が健康であるということにとどまらず、自己実現ができる環境が整っていることや、自律的に仕事に取り組めることなども含まれることとなります。社会全体で、働き方改革の取組が進む中で、「ウェルビーイング」という言葉に注目が集まるようになりました。そして、ウェルビーイングな学校づくりが求められています。

教員のウェルビーイングなくして、子どもたちのウェルビーイングなし、子どもたちのウェルビーイングなくして、教員のウェルビーイングもありません。さらに、ここには地域社会や保護者も入ってきます。ウェルビーイングな学校になるために、子ども、教員、社会が三位一体となった好循環をどうつくりあげるか、これがめざすべきゴールです。

一人一人が感じるウェルビーイングは違います。それぞれのウェルビーイングを大切にすることができるように、互いの思いや考えを認め合い、その実現に向けて協働することができるような学校づくりを進めたいと考えています。簡単ではありませんが、その第一歩として、子ども、教職員、保護者、地域の方々を巻き込んで、学校のランドデザインを描くことができればと思っています。

お知らせ

P T A新聞第352号（12月発行）については、すぐーるによるPDF配信とさせていただきます。PDFは、電子化された情報なので、瞬時にしかも同時に複数の宛先へ配信することができます。第353号（3月発行）については、皆様のご意見をお聞きした上で判断させていただきます。よろしく申し上げます。

